



白山の気象概要

手取川流域の年間平均降水日数は約220日、年間平均降水量は平野部で約2,600mm、山間部で約3,300～3,600mm（全国平均の約2倍）に達する。北陸地方では、太平洋側で見られるような暖かく湿った気流の収束は見られないものの、前線や台風の影響は避けられず、一方で冬に大陸から吹く北西風により日本海からの多量の水蒸気が降雪となるためである。

● 白山の四季

春

日本の南側に高気圧が発生すると、その縁辺を回ってくる暖かな南西風が強まり、2月下旬～3月上旬には「春一番」が日本列島に春を知らせる。春はシベリア高気圧が弱まり、低気圧通過時には天気が激しく変化する。南風は白山北西側でフェーン現象を引き起こし、急激な雪解けが起こることがある。

秋

太平洋高気圧の後退に伴って、日本列島をはさむ気圧の高低が再び釣り合うと、秋雨前線が列島を覆う。秋に日本海側を回る台風は温帯低気圧化して強力に発達する場合がありますので夏とは異なった注意が必要になる。

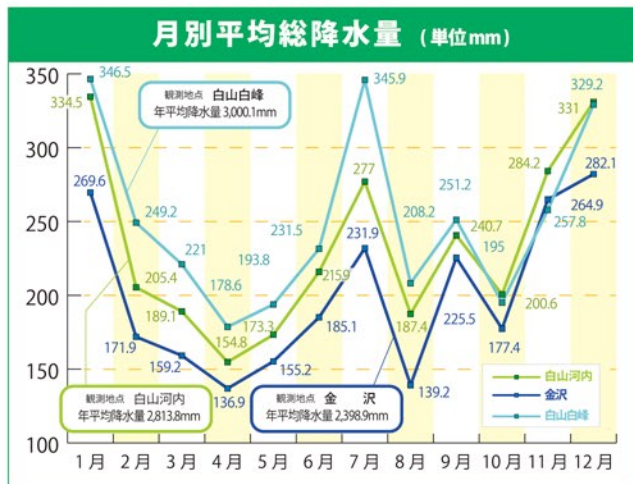
夏

梅雨期と

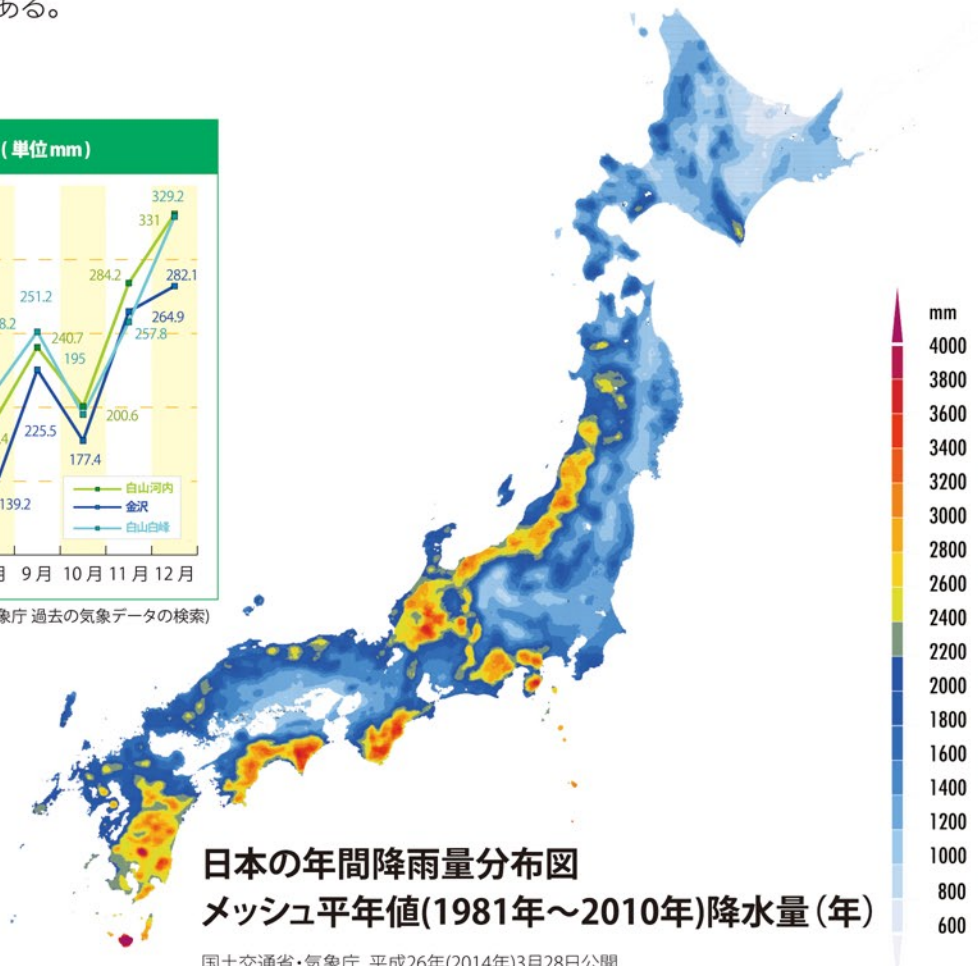
梅雨期には前線が停滞するため、6月中旬～7月中旬の月間降水量は白山白峰では300mm以上にもなる。台風は年ごとに異なる強さの太平洋高気圧の西縁に沿って北上するため、北陸地方にも接近・上陸するので注意が必要である。

冬

白山の初雪は10月中旬であり、厳冬期には5m以上の厚い雪に覆われる。積雪は斜面を下方に引きずるだけでなく、雪崩によって植生ごと斜面を崩していく。また、低く垂れ込める雲が乱れて積乱雲となると北陸地方特有の非常に強い冬季雷が発生する。



年間降雨量データ期間 1981年～2010年 (引用元 気象庁 過去の気象データの検索)



日本の年間降雨量分布図
メッシュ平年値(1981年～2010年)降水量(年)